



紀南病院 研修医通信 VOL.127

KINAN HOSPITAL



東京大学医学部附属病院 研修医 松田 眸

この度は、1ヶ月紀南病院で研修をさせていただきありがとうございました。コロナ禍でしばらく、東京からの受け入れが中止されており、再開第一号ということで身が引き締まる思いでしたが、指導医の先生や病院の方々、地域の皆様にはあたたかく迎え入れてくださり感謝しております。今回は研修医通信ということで、1ヶ月の地域研修で経験したことを振り返りたいと思います。



海沿いを列車に揺られて7時間、三重県の最南部、紀南病院にやって来ました。最寄りの阿田和駅に着くと、潮の香りとヤシの木に、きらきら輝く海の景色がとても気持ち良く、新しい環境での研修がとても楽しみにになりました。

病院では初日から早速、職員の方々に研修に際しての案内をしていただき、紀南病院や地域への思い入れを感じました。時代を感じる病棟や院内は私にとっては新鮮で、患者さんも多くが80代、90代のなかエネルギー溢れる高齢者の方が多く、大学病院では間違いなく経験することができない研修環境だったと思います。

紀南病院の先生方は皆、自分の診療科に限らず内科全般を診られています。地域では"どんな病気もまず診療ができること"が、求められていて、お互いに専門を相談し合いながら頼もしく働かれている姿が印象的で、総合内科的なアプローチがとても勉強になりました。コメディカルの方々や患者さんとも距離が近く、地域に根差した医療を知ることができました。病棟の他にも、内視鏡や心エコー、救急外来などご指導いただきました。



熊野消防署の皆さんと

今回転院搬送にも三度行かせていただきました。大学病院ではなかなか機会がなく、転院までの段取りや、救急車内の機能、救急隊の方からも現場の話を聞くことができ、とても良い経験ができたと思っています。

人生初の救急車で、はじめは搬送先が往復5,6時間の長距離搬送の上、山道も通ると聞き、車酔いをしないかが少し気がかりでしたが、出発前に『先生！これ飲んで行き！』と看護師さんからいただいた酔い止めのトラベルミンが、魔法のように効き、患者さんも、私も、無事何事もなく搬送することができました。

救急車は案内揺れる上に、外の景色が見えず、横向きに座って同乗するので酔いやすいと言われているのですが、走行中に、点滴や人工呼吸器の調整などであちこち動いたり、書類や画面を見ても何ともなかったもので、感激をしていました。薬は本当にありがたいですね（笑）



診療所研修では、相野谷診療所・神川へき地診療所・くまのなる診療所に行かせていただきました。

“地域の医療”と聞くと、限られた医療資源の問題でどうしても限界があるイメージがありましたが、診察の合間を縫って、オンラインで、医療・介護の情報連携やIT化に取り組む先生の姿をみて、地域医療の未開拓な部分や、発展の余地を知ることができました。

一方で、訪問診療では、ご自宅を訪ね、ひとりひとり患者さんの人生の背景を知ることで生まれるあたたかさが、直接向き合っ

て診察する良さも改めて感じることができました。ご自宅で終末期を迎える百寿間近の患者さんが、布団で横にな



週末には、海沿いを数十キロをサイクリングしたり、車を借りて温泉や神社、世界遺産の名所を回りました。食べ物も海産物がどれも新鮮で、近くのスーパーで鯛や鰯、とんぼしびを買ってよく料理して食べました。

御浜町は、“年中みかんのとれるまち”としてもまちづくり盛んで、色々な種類のおいしいみかんがたくさんあり、黄色くなるのではないかとこのほど毎日あらゆる種類のみかんを食べました。

最後に、短い間でしたが地域の魅力を知り、とても楽しく研修をすることができました。

海と山に囲まれ、自然溢れるあたたかい紀南病院で感じたことや、今回のご縁を大切にこれからも日々精進していきたいと思っています。指導医の佐藤先生や津呂橋さん、清水さん、鈴木先生をはじめ多くの方にお世話になりました。ありがとうございました。

研修を終え、専門科に進んだのちはまた違う視点で地域に還元できることがあるかと思っていますので、また将来お世話になることがあればみなさまよろしくお願い致します。1ヶ月ありがとうございました！

